



土壌医の会 通信

第13号

2023年4月25日

- ・2022年度土壌医検定について
- ・WEB講習会のお知らせ
- ・事業体土壌医の会ご紹介コーナー：
「アグロカネショウ土壌医の会」さん
- ・土壌医♡活躍中：井田憲治さん
- ・土壌医の会入会のご案内
- ・その他

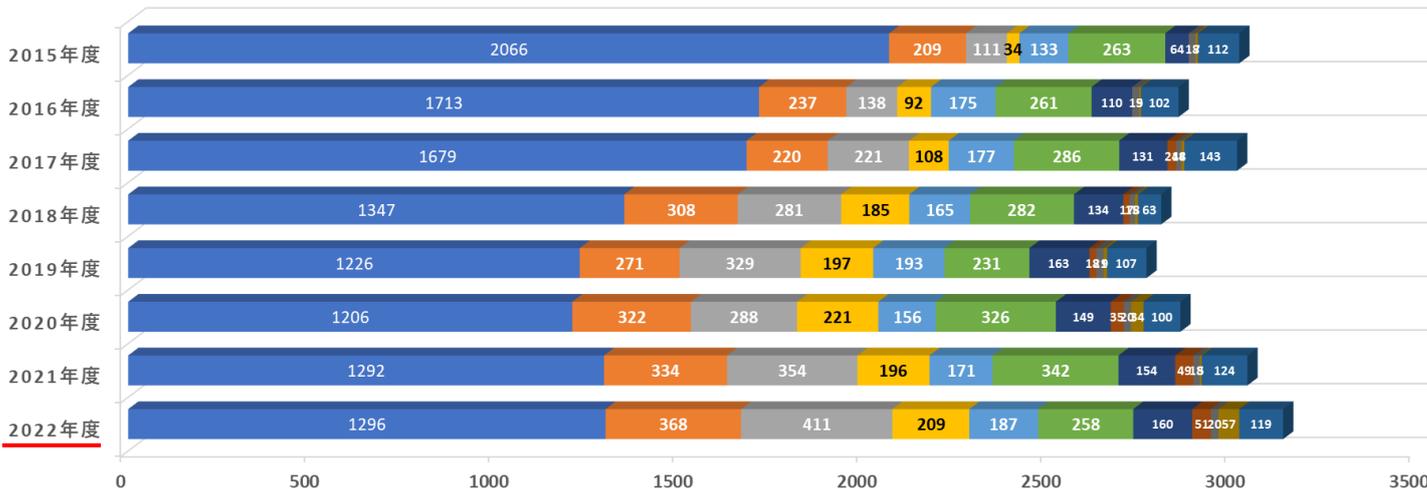
2023年2月13日 🌸全国各地で土壌医検定試験が行われ、
3月23日に2級と3級、4月20日に1級の合格者が発表されました。



今年度は、高崎会場（群馬県）、東金会場（千葉県）など、準会場が増設されたこともあり、3136名（前年度プラス97名）の皆さんからの受験申し込みがありました。職業別受験申込者数は下のグラフの通りです。

職業別受験申込者数（人）

■会社員 ■JAグループ ■農業者、農業法人 ■農業大学生 ■公務員 ■農業高校生 ■大学生・大学院生 ■自営業 ■公益団体職員 ■専門学校生 ■その他

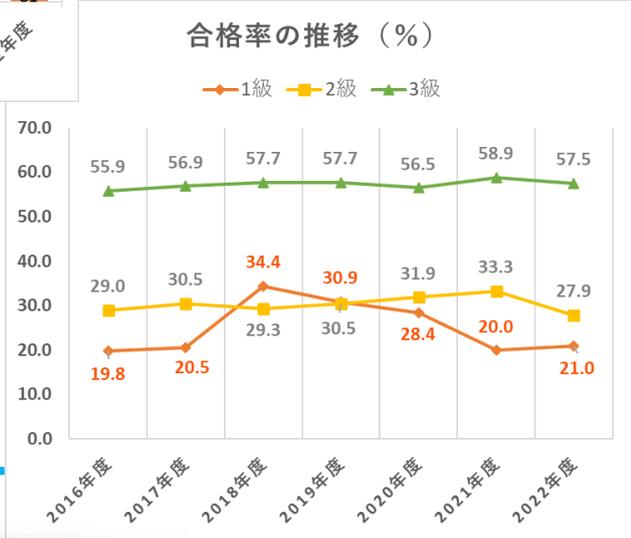
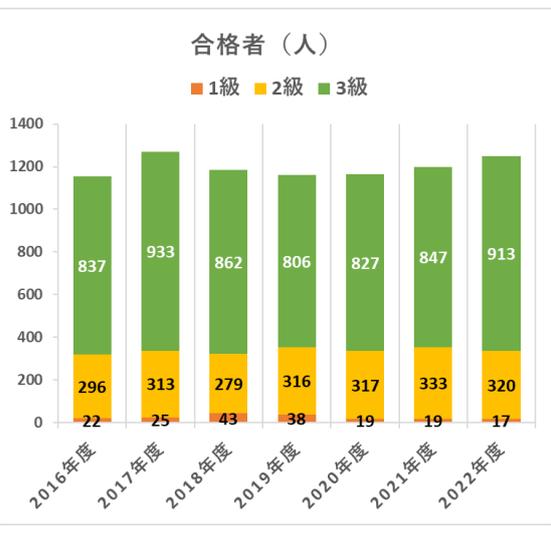
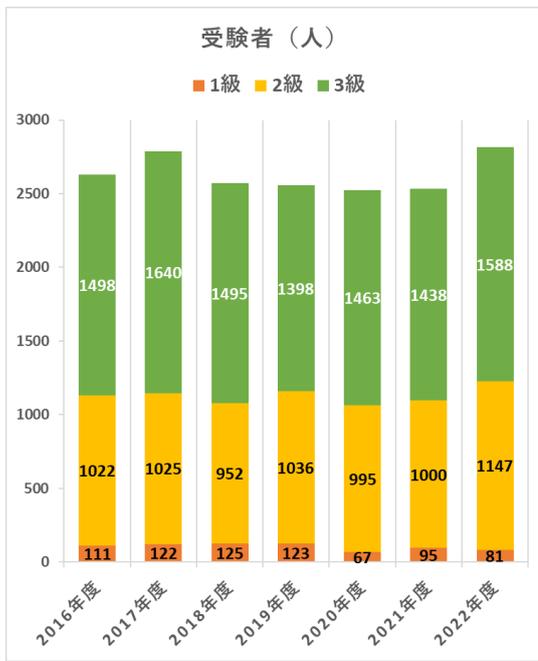


右のグラフは、級別の受験者数と合格者数の推移です。今年度の合格者は1250名でした。皆様、おめでとうございます。次のステージに向けての飛躍を祈念します。

惜しくも不合格だった皆様、不屈の精神で次こそ合格できますように、ご健闘をお祈りいたします。手厚い受験対策を行っている土壤医の会もありますので、ぜひのぞいてみてください(土壤医の会入会案内をご参照ください)。

土壤医の会では、受験対策だけでなく、WEB講習会への参加や様々な情報交換が行われています(なお、2023年度の土壤医検定試験は2024年2月18日(第3日曜日)です)。

土壤医の会正会員に発送または配信されている、隔月刊の「作物生産と土づくり」(定期購読もできます)には、毎号、各級とも、前年度の出題の中で正答率の低かったものについて解説が掲載されていますので、そちらも受験勉強に役立ててください。



「農系ポッドキャスト」をされている石垣島の農家さん。グループチャット利用の土壤医検定受験対策で見事合格…というお話。
<https://open.spotify.com/episode/4DzM42HdsAsuyjKHV1dkF2?si=gJToUDD6SIS9x7pUfFirBA>



複数の農系ポッドキャストの方が、土壤医検定合格の声を配信されています!



講演会 WEB 配信のお知らせ (予告)

2023年5月24日水曜日 15時~16時45分 日本教育会館で行われる講演会がWEB配信されます。CPD単位の対象になりますので、ぜひご参加ください。

- ・演題1: 肥料法改正による肥料と土壤改良資材との混合
 講師: 農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 瀧山 幸千夫 氏
- ・演題2: 微生物資材の効果と表示、評価をめぐる動きと課題
 講師: 土壤医の会全国協議会会長 前片倉コープアグリ(株)技術顧問 野口 勝憲 氏

申込方法は、後日、メールおよびWEBサイトでお知らせ致します。

ご寄稿いただきました。

アグロカネショウは農薬メーカーです。主力商品が土壤消毒剤ということもあり、生産者により効果的に土壤消毒剤を使用してもらうためにも、土壤に関する知識を身に付けた上で、生産者へのより適切なアドバイスが必須となっています。そこで、自社で土壤分析室を設置し、化学性分析、生物性分析を行っていますが、その分析結果を全国のTCA（テクニカルコマーシャルアドバイザー）が現地に役立つ診断ができるように目指しております。

そのような取り組みを目指し、営業及び技術普及に関わる社員が最低2級を取得できるよう土壤医検定試験を受講し資格取得に取り組んでいます。2021年にはアグロカネショウ土壤医の会を設立し、会の活動として、これらの活動を行っているところです。各支店の2級を取得したTCAの中から1名を土壤診断プロ担当者として育成できるように、日本土壤協会と業務連携を行い、現地研修やそれぞれの現地解決に向けた現地での診断表作成にあたってのアドバイスをいただいております。

特に生物性分析は農研機構のヘソディムを活用した診断、さらには土壤病害や線虫被害は分析結果だけでは原因究明ならびに対策を立てることが難しい場合は、農研機構との共同研究を活用し土壤断面調査により総合的に判断しています。しかし、物理性診断についてはまだ確立できていないため、日本土壤協会からのアドバイスや経験値を積んでいきたいと考えています。

一昨年から全国土壤医の会と連携し、データ駆動型土づくり推進事業にも参加し、将来的には診断に役立つ問診票の作成と合わせて、農薬メーカーとして総合的な土壤分析サービスが進められよう目指しております。

アグロ カネショウ株式会社



土壤断面調査 マニュアル

Ver.1 2021年5月31日

AGRO-KANESHO CO. LTD.

どこまでも農家とともに

アグロ カネショウの土壤分析

農作物の生育に大きな役割を持つ土壤の健康診断を実施しています。

土壤の化学性や生物性分析
などによる**土壤診断**を行います!!

分析項目

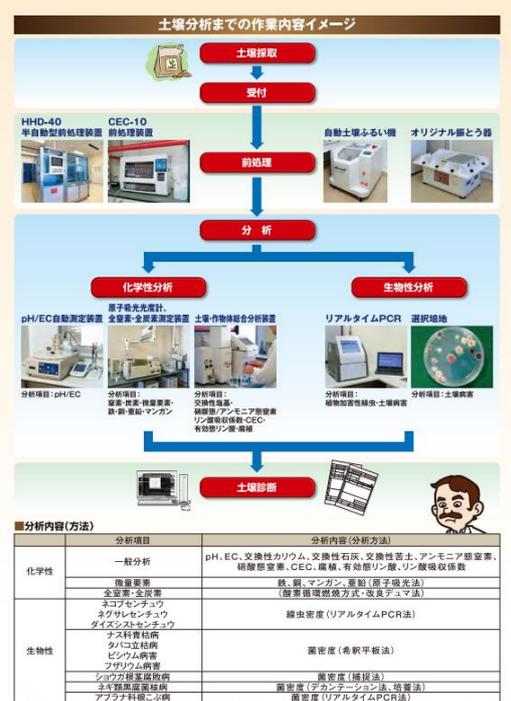
化学性分析
pH(H₂O)、EC、交換性カルシウム、交換性石灰、交換性苦土、アンモニア態窒素、硝態窒素、CEC、腐植、有効態リン酸、リン酸吸収係数

生物性分析
植物寄生性線虫
ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、タイヌシセンチュウ

土壤病原菌
ナス科青枯病、タバコ立枯病、ヒレムシ病、フザリウム病、シロウガ根腐病、ネキリ根腐病、アブラナ科根こぶ病

アグロ カネショウでは、土壤中から線虫等のDNAを抽出し、リアルタイムPCR等を用いて同定と定量を行います。

アグロ カネショウ株式会社



土壤医♥活躍中！ 異分野から農業参入

～癒しと自然に則した生活リズムを農業に求めて～

群馬県藤岡市在住 井田憲治さん（首都圏土壤医の会所属）

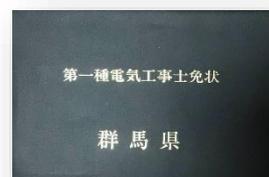


【どんな人？】

最近、地域土壤医の会では、情報交換手段としてグループチャットツールの利用が増えています。今回ご紹介する井田さんは、所属する首都圏土壤医の会だけでなく、複数のグループチャット（Discord、Slack、Facebookなどでの土壤医や農業系グループ）に所属し、どんな世代の集まりの中でも臆することなく、様々な質問（作物生育過程での病害虫、農業機械のトラブル、土壤医検定に関する質問など）に、柔軟かつ俊敏に対応して、頼れる存在になっています。2022年度の土壤医検定試験では、準会場として高崎会場を誘致し、群馬県内での受験を可能にしました。

【元々の専門】

向学心、好奇心旺盛、こんな風に年齢を重ねたいと思わせる年長者である井田さんの専門は電気。工場の省力化、自動化のための電装設計（配線）と機械設備のプログラミングが主なお仕事。企業勤務を経て30歳前に独立し、情報処理サービス業を長年されてきましたが、生産ラインが回っていない時のデバック作業など、仕事が深夜に及ぶことも多かったそうです。癒しを求めて40代に家庭菜園を始め、群馬県立農林大学校の社会人コースを経て、60歳で新規就農を果たされました。主力作物は水稲、ナス、ネギです。土壤医検定は、農林大学校の土壤学の先生から受験を勧められたそうです。



【さらなる目標】

「土壤医検定受験を通じて得た知識を活用し、定期的な土壤診断や生育診断、それに基づく土壤改良を行って、安定した作物生産が行えるような圃場環境作りを目指したいと思います。また、土壤医として、多くの家庭菜園を楽しむ人や農業者の方々に、土づくりの重要性と土壤医検定を知ってもらえるよう広めることと、後継者の育成に力を入れて地域で活動をしていきたいと思っています。」とのこと。

【♥インタビューを終えて…】

元々の職業柄、農業機械のメンテナンスはお手の物。長年、物を言わない機械設備相手に、様々な視点からその不具合を探ってきた経験が、柔軟性と幅広い視野を育み、農業にも人間関係にも活かされているのだと感じました。ぜひ若い世代に、その考え方や姿勢を伝授していただきたいと思います。土壤医界での異分野融合と異世代交流で、農業に新しい風が吹く予感がしています。



土壤医の会入会のご案内

土壤医、土づくりマスター、土づくりアドバイザー、土壤医検定挑戦中、これから受験してみようかなと思っている皆様、各地の土壤医の会に参加してみませんか。資格登録者以外の方でも、準会員として参加できます。また、ゲストとして気軽に参加できる会もあります。会議室や作業場での講習会に加えて、最近はインターネット会議も頻繁に行われ、遠隔地の方でも簡単に参加できる会が増えています。グループチャットツールで、他県の会員さんとも、様々な情報交換（土壤医検定受験対策も含む）を行っている地域土壤医の会もあります。

土壤医の会の**正会員登録は、入会を希望する土壤医の会を通して行うのが一般的ですが**、自分の居住地の近くに土壤医の会が無い場合は、全国協議会で入会手続きをされるのが便利です <https://soil-doctor.net/enter>。参加してみたい土壤医の会がある場合は、直接そちらに連絡してください。複数の土壤医の会に所属することも可能です。

地域土壤医の会一覧

<https://www.doiken.or.jp/images/merit2022.pdf>

名称（都道府県順）	事務局所在地	会長名	事務局メールアドレス （★を@に置き換えてください）
北海道オホーツク土壤医の会	北海道	佐藤 富則（土壤医）	kak2★hotmail.com
札幌土壤医の会	北海道	根本 浩（土壤医）	h-isigaki★kk-tanbaya.co.jp
青森南土壤医の会	青森県	後澤 寿雄（土壤医）	boss★ushirozawa.jp
秋田土壤医の会	秋田県	金田 吉弘（秋田県立大学名誉教授）	hayakawa★akita-pu.ac.jp
茨城土壤医の会	茨城県	屋代 幹雄（元農研機構）	masahiro_mitsuboshi★katakuraco-op.com
柏土壤医の会	千葉県	高野 典子（土壤医）	n-kouno★jcom.home.ne.jp
両総土壤医の会	千葉県	長谷川 智重（土壤医）	midori.h.0508★gmail.com
首都圏土壤医の会	東京都	高山 晃（土壤医）	info★xn--ekrx2gnbu0i639kk1k.jp
新潟県土壤医の会	新潟県	小柳 涉（土壤医、新潟県農業総合研究所）	main-niigatadojyoui★niigata-dohikon.com
信州土壤医の会	長野県	吉田 清志（土壤医、JA全農長野）	yamada★matsumoto-biken.co.jp
三重県土壤医の会	三重県	近藤 芳弘（土壤医、三重県桑名農政事務所）	hongo16421★gmail.com
近畿土壤医の会	大阪府	間藤 徹（京大名誉教授）	uchiyama★dgcbase.jp
山陰土壤医の会	島根県	松本 真悟（島根大学教授）	kasuga★life.shimane-u.ac.jp
広島土壤医の会	広島県	森 昭暢（土壤医）	moriaki1116★yahoo.co.jp
愛媛土壤医の会	愛媛県	上野 秀人（土壤医、愛媛大学教授）	dojoi★agr.ehime-u.ac.jp
高知土壤医の会	高知県	山崎 浩司（土壤医）	hyamasaki169★gmail.com
福岡土壤医の会	福岡県	一百野 昌世（土壤医）	h.kohsaka★agrigarden.co.jp F.sato★agrigarden.co.jp
北部九州土壤医の会	福岡県	染谷 孝（土壤医）	masatoshi_nonoshita★katakuraco-op.com
九州土壤医の会	長崎県	大畑 和生（土壤医）	saw_50arashi★outlook.jp
大分土壤医の会	大分県	小野 忠（元大分県農林水産研究指導センター）	oitadojyoui★oct-net.ne.jp
宮崎土壤医の会	宮崎県	赤城 康（元宮崎県総合農業試験場）	kuroki.t★ryoto.co.jp
沖縄土壤医の会	沖縄県	宮丸 直子（土壤医）	mail★okinawa-nougyou.net

事業体土壤医の会一覧

名称	事務局所在地	名称	事務局所在地
ヤンマー土壤医の会	大阪府	朝日アグリア（株）土壤医の会	埼玉県
富士見工業土壤医の会	静岡県	住商アグリ土壤医の会	東京都
クボタ土壤医の会	大阪府	生科研土壤医の会	埼玉県
ホーネンアグリ土壤医の会	新潟県		熊本県
日本肥料土壤医の会	群馬県	やまか土壤医の会	東京都
片倉コープアグリ土壤医の会	東京都	イノチオ土壤医の会	愛知県
朝日肥糧土壤医の会	香川県	豊田土壤医の会	静岡県
土の匠土壤医の会	群馬県	日東エフシー土壤医の会	愛知県
サカタ土壤医の会	高知県	アグロカネショウ土壤医の会	埼玉県



皆様、「プラネタリーバウンダリー」という言葉をご存知でしょうか？

「地球の環境容量を科学的に表示し、地球の環境容量を代表する 9 つのプラネタリーシステム(気候変動、海洋酸性化、成層圏オゾンの破壊、窒素とリンの循環、グローバルな淡水利用、土地利用変化、生物多様性の損失、大気エアロゾルの負荷、化学物質による汚染)を対象として取り上げ、そのバウンダリー(臨界点、ティッピング・ポイント)の具体的な評価を行ったもの。」で、「ストックホルム・レジリエンス・センター所長ロックストロームらにより開発された概念。現在人類が地球システムに与えている圧力は飽和状態に達しており、気候、水環境、生態系などが本来持つレジリエンス(回復力)の限界を超えると、不可逆的变化が起こりうる。人類が生存できる限界(プラネタリーバウンダリー)を把握することにより、壊滅的变化を回避できるのではないか、限界(臨界点)がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示したもの。」だそうです。

この言葉をたどっていくうちに、2020年9月3日に開催されたオンライントークショー「地球の限界 “プラネタリーバウンダリー” & 循環型社会 ～世界と日本の取り組みからみんなでできることを考える～」の記事に巡り合いました。プラネタリーバウンダリーのうちの、「窒素とリンの循環」の問題に焦点をあて、ACT SDGs と SDGs 活動支援センターの共催で、専門家と学び考えることを目的として行われたこのイベントは、YouTube(<https://www.youtube.com/watch?v=d4l2QsgHYfl>)からご覧いただけます。(この内容については、国立環境研究所「地球環境研究センターニュース」SEMINAR2020年12月号 Vol. 31 No. 9(通巻 360号)<https://cger.nies.go.jp/cgernews/202012/360002.html> から引用しています。)

その中に、「環境保全に配慮した農業の取組」として、農林水産省生産局 農業環境対策課長の次のようなトークがありましたので、ご紹介致します。

「土壌や水は農業生産の基盤。使うことが可能な地表の土を持続的に使っていくためには、生産力を高めた上で品質も維持しなければなりません。農産物を作るときには、過不足なく必要な時期に土に養分を与えることが大事です。そのためには、土壌の性質を診断し、足りない養分等を見極めて必要に応じて肥料を与えることが重要です。＜中略＞ 肥料を減らす取組もあります。たとえば、肥効調節型肥料の利用や側条施肥などの技術を導入することで施肥量を低減し、それにより1タールの施肥コストも低減効果を期待できるようなものです。こうした取組は手間もかかりますしノウハウが必要になるので、普及職員などにも協力していただき、施肥指導體制を作っています。さらに、**土壌医という検定試験制度があり、土壌医 1 級の資格をもっていच्छる方々にご活躍いただいで土壌の維持管理を進めています。**(以下略)」 ←責任重大ですね！

…ということで、土壌医だけでなく、マスター、アドバイザーの皆様も一緒に地球の未来のために私たちができることを考えていきましょう！！明るい地球の未来は、私たちの肩にかかっていますヨ(´▽`)

最後に、「持続可能な農業のための堆肥-土壌-植物相互作用モデル-好熱菌を活用した脱化学肥料・脱化学農業法の可能性を探る-」 https://www.riken.jp/press/2023/20230412_1/index.html について、非常に大雑把ではありますが、ご紹介致します。2023年4月12日にプレスリリースされたばかりです。好熱菌(枯草菌など 50℃以上で増殖能を有する細菌群)を活用した堆肥(好熱菌発酵物)が土壌共生菌と相互作用し、作物の生産性、品質、環境負荷に関わる生理的な反応に関与することが示されたという内容です。納豆菌(枯草菌)が〇〇に効くとか、△△の堆肥が□□にどうか、色々な経験則を聞きますが、偶然なのか、普遍的なのか、自分の田畑ではうまくいくのか等々、何かと悩むところでした。これからどんどん科学の力で多角的な解析が進んでいけば、様々な場面で応用が利くようになりそうですね。

皆様のご意見を募集しています。何でもどうぞ。 kouno@japan-soil.net まで

よろしく願い致します。

